

＜漁業金融の円滑化に向けた新たな資金調達方法等の検討について＞

現状

漁業経営は、経営として利益を追求することと、資源管理のために収入の基となる漁獲をコントロールするといった、相反する経営課題を同時に求められる経営であるとともに、主に漁船を担保にするなど特有のリスクが存在しており、そのリスク評価が困難とされています。そのため、漁業金融の円滑化が求められています。

課題

漁業金融の円滑化に向けた課題は、以下の通りです。

1. 漁業経営は、自然現象により漁獲高が左右されるという漁業特有の事情等を有し、リスクの評価が困難であること
2. 漁船漁業においては主に漁船を担保にするなど特有のリスクを有するため担保評価が困難であること
3. 養殖業等で期待される漁業特有の財産・動産等も、その担保として適切に評価・管理する手段がないなど、金融上有効に評価されていないため先進的事例はあるものの一般的にはあまり普及していないこと
例えば、生け簀等に担保権を実行しても処分が困難であること等の理由により民間金融機関においては一般に担保に適さない物件とされているため、あまり普及していないこと

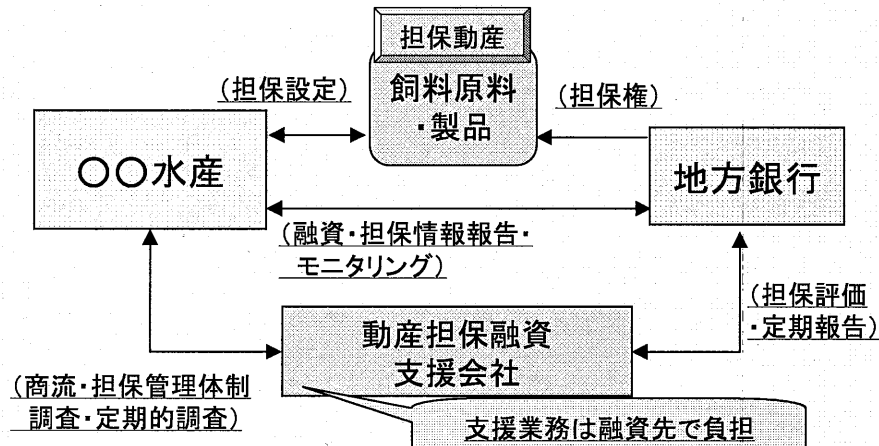
今後の対応

以上のような現状・課題を踏まえ、来年度から漁業金融の円滑化について、動産担保融資等も含め本格的な検討を行うこととします。このため、新たな資金調達方法、担保評価方法、債権管理方法等の調査・検討及びこれらの普及推進に向けて、平成21年度予算要求をし、今後3年間調査検討等を行う予定です。

＜水産業における動産担保融資の事例＞

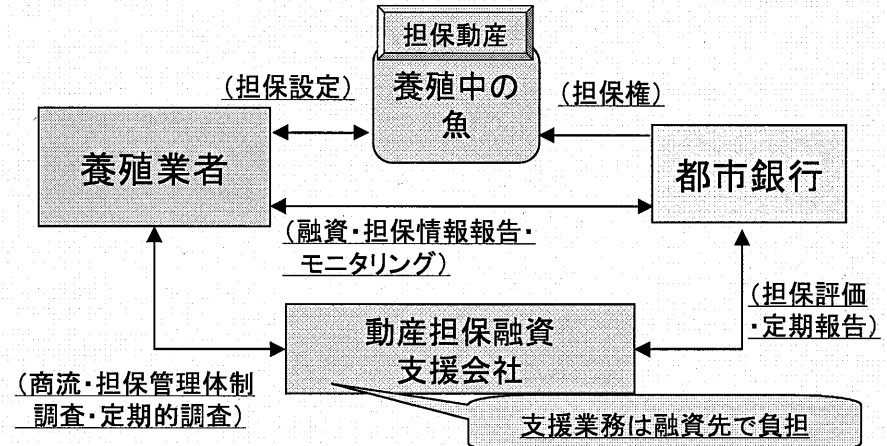
【動産担保融資（ABL）：売掛金や在庫・動産等、企業の営業活動に直結する営業資産の価値に着目して融資】

飼料用原料・製品等を担保



- 融資額5億円
- 当座貸越
- 短期運転資金(自動更新)
- 動産担保の総合支援会社において、
動産管理体制の調査、動産評価、定期
調査、報告を行う

養殖活魚を担保



- 融資額2億円
- 当座貸越
- 短期運転資金(自動更新)
- 動産担保の総合支援会社において、
動産管理体制の調査、動産評価、定期
調査、報告を行う

他の事例

- ・ ベニズワイガニを担保に地方銀行等から協調融資(水産加工業)
- ・ 在庫の冷凍マグロを担保に地方銀行から融資(卸売業者)
- ・ 養殖中のウナギを担保に都市銀行、地方銀行、信用組合による協調融資(ウナギ養殖業者)